

会議議事録

会議名	2019年度第1回医療事務分野教育課程編成委員会
開催日時	2019年7月30日(火) 15:00~17:00
場所	本校704教室
出席者 (敬称略)	<p>① 企業等委員：須貝和則(国立国際医療研究センター医事管理課長)、横堀由喜子(日本病院会学術部長)、山室 靖(東京衛生病院医事課課長)、直井智之(東大和病院事務部長) (計4名)</p> <p>② 本校委員：橋本正樹(校長)、村山由美(医療秘書科学科長兼医師事務技術専攻科学科長)、深澤由紀子(医療秘書科副学科長)、黒田 潔(医療マネジメント科学科長兼診療情報管理専攻科学科長)、三宅かおり(医療マネジメント科副学科長兼教務委員長)、江崎侑子(診療情報管理専攻科教員)、宮下明久(事務局長)、(計7名)</p> <p>③ 事務局：松本晋圭、清水範子(計2名)</p> <p style="text-align: right;">(合計13名)</p>
欠席者	なし
配付資料	<p>① 事前送付：□資料1：2019年度医療事務分野教育課程編成委員会名簿、□資料2：平成30年度第2回本委員会会議議事録、□資料3-1：平成30年度活動の自己点検・自己評価報告書(点検大項目)、□資料3-2：平成30年度学科運営計画の年度末点検報告、□資料3-3：平成30年度第2回委員会以降の主な経過報告、□資料3-4：2019年度校務分掌、□資料3-5：2019年度クラス担任一覧、□資料3-6：平成30年度就職状況報告、□資料3-7：2019年度「ワセダキャリアサポートプログラム」スケジュール例、□資料4：2019年度重点目標と達成するための計画・方法、□資料5：2019年度教員研修計画・実績、□資料6：2019年度学科運営計画、□資料7：2020年度カリキュラム(案)</p> <p>② 本配付印刷物：□2019年度講義要項、□2019年度学生生活ガイド、□2019年度Challenge就職活動ノート、□2020 SOKKI SCHOOL GUIDE</p>
委員長	橋本校長
議題等	<p>1. 事務局より今年度委員の確認</p> <p>事務局より、資料1に基づき今年度委員の紹介が行われた。医療秘書科及び医師事務技術専攻科の学科長に村山由美、医療秘書科副学科長に深澤由紀子が就任し、委員となったこと及び事務局担当に清水が加わったことについて報告が行われた。</p> <p>2. 校長挨拶</p> <p>医療秘書科、医療マネジメント科ともに3クラス体制をようやく維持できた。18歳人口の減少の影響で募集が厳しくなる中、今後は高校新卒者を対象とした専門課程だけでなく、学び直しの教育や外国人を対象に踏み出すべきとの声もあるが、まずは今ある学科の教育を充実させていくことが前提と考えている。</p> <p>委員の皆様には、貴重なご意見を賜りたい。</p>

3. 前回委員会議事録の確認（説明者：事務局松本）

前回議事録（資料2）について、訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に異議なく確認、了承された。

4. 平成30年度第2回委員会以降の主な活動報告等について

(1) 本校の平成30年度重点目標の年度末点検報告（説明者：橋本校長）

資料3-1に基づき報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(2) 医療事務分野各学科の平成30年度学科運営の年度末点検報告（説明者：村山学科長、黒田学科長）

資料3-2に基づき各学科の報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(3) 平成30年度第2回委員会以降の主な経過（説明者：宮下事務局長、橋本校長）

資料3-3～3-7に基づき報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 2019年度の重点目標と達成するための計画・方法について（説明者：橋本校長）

資料4に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 2019年度の教育活動と学科運営、計画等について（説明者：村山学科長、黒田学科長）

資料6に基づき各学科の説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

7. 2019年度生カリキュラム編成等について（説明者：村山学科長、黒田学科長）

資料7に基づき各学科の説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

8. 全体を通しての質問・意見・提案と意見交換等

本校委員と事務局による議題7までの報告、説明終了後、企業等委員から全体を通しての質問、意見、提案があり、意見交換が行われた。詳細は別紙のとおり。

9. 次回日程、その他

事務局より、本委員会は年2回の開催で次回は2月を予定、10月に日程調整を行う旨、事務連絡が行われ、閉会した。

以上

2019 年度第 1 回医療事務分野教育課程編成委員会の主な討議内容

4. 平成 30 年度第 2 回委員会以降の主な活動報告等について

(1) 本校の平成 30 年度重点目標の年度末点検報告

○橋本校長より、資料 3-1 に基づき以下の報告が行われた。

① T P C の育成と強化

- ・卒業後、職業人として生きていくためには、自分で考え、行動していく力の強化が必要と考え、まずは学生が学ぶことを楽しめるような授業改革を求め、実施してきた。

② 学び直しの教育プログラムの開発

- ・本校の立地を生かし、夜間・休日の施設活用を検討し、一部の講座を開始した。

③ ビジョンの共有とアクションプランの策定

- ・新たな教育活動を見据えて教職員がビジョンを共有し、ベクトルをそろえていくため、学内の勉強会を計画し、実施した。

(2) 医療事務分野各学科の平成 30 年度学科運営の年度末点検報告

(ア) 医療秘書科

○村山学科長より、資料 3-2 に基づき以下の報告が行われた。

- ・6月の検定は秘書検定のみとし、専門分野の検定は11月以降に受験するように変更した。
- ・前年度の本委員会で頂戴した意見を反映し、カリキュラムを改訂した。

① 「介護保険の基礎」を2年次の必須科目に位置づけた。

② 病院事務実習、国際ホスピタルショウを通じて外部の方に接する機会を提供することにより、コミュニケーション能力の向上の機会を設けた。

③ パソコンの授業では、膨大なデータを取り扱えるように教材の工夫をした。

- ・結果として、医療秘書検定3級は2年次6月で全員取得できた。
- ・各種検定の結果も2年次になって前年度よりよい結果が出ている。

(イ) 医療マネジメント科

○黒田学科長より、資料 3-2 に基づき以下の報告が行われた。

- ・パソコン系科目を再編し、内容をリニューアルした。
- ・診療情報管理士系では、コーディング系科目の再編と、診療情報管理士認定試験対策強化のための科目を新設した。
- ・対人能力については、キャリアデザインの中で社会人化教育の要素も盛り込む形にした。

(ウ) 診療情報管理専攻科

○黒田学科長より、資料 3-2 に基づき以下の報告が行われた。

- ・平成 30 年度の診療情報管理士認定試験の合格率は高水準を維持し、合格者数は過去最高となった。
- ・日本病院会のカリキュラム改編に併せて、年間 60 単位 930 時間から 54 単位 840 時間に設定した。その主な内容は次のとおり。

① 臨床医学、医学用語の科目を整理・統合した。

② 診療報酬請求事務の廃止、D P C 授業の整理・統合、パソコン系科目の再編をした。

③ カルテ読解、がん登録の分野を強化した。

(3) 平成 30 年度第 2 回委員会以降の主な経過

○宮下事務局長より資料 3-3 及び 3-5～3-7、橋本校長より資料 3-4 に基づき以下の報告が行われた。

1. 2019 年度の組織運営関連

- ・2019 年度校務分掌（資料 3-4）
- ・2019 年度クラス担任一覧（資料 3-5）
- ・2019 年度学事日程（2019 年度学生生活ガイド P4～5 参照）
- ・2019 年度オープンキャンパススケジュール（SOKKI SCHOOL GUIDE 2020 P81～82 参照）

2. 学校関係者評価関連（資料 3-3）

- ・3/24 平成 30 年度第 3 回学校関係者評価委員会開催。
- ・7/14 2019 年度第 1 回学校関係者評価委員会開催。

3. 平成 30 年度学生の状況関連

- (1) 退学者数（資料 3-3）
- (2) 就職活動結果（資料 3-6）
- (3) 2019 年度各専攻科及び他科への進学状況

○2019 年度校務分掌組織図（資料 3-4）

- ・医師事務作業補助指導研究会を新設し、指導体系の検討の場をスタートさせた。
- ・近隣の日本語学校、大学院の先生と連携し、留学生教育協議会を設けた。

○平成 30 年度就職状況報告（資料 3-6）

- ・医療事務系分野の学科の就職状況は良好だった。
- ・今年の特徴として、大学の附属病院が増えた。一般病院も規模の大きいところが増えている。

○2019 年度キャリアデザインスケジュール（資料 3-7）

- ・1 年次でグループディスカッションやメンタルヘルスを取り入れるなどの工夫をしたほか、就職活動の早期化に対応したプログラムを組んだ。

5. 2019 年度の重点目標と達成するための計画・方法について（資料 4）

○橋本校長より説明が行われた。

- ・①の T P C の育成と強化では、従来の講義中心型ではなく、参加型の授業を工夫し、学生が楽しみながら、自ら積極的に学ぶ流れをつくりたい。
- ・②学び直しの教育プログラムの開発、③ビジョンの共有とアクションプランの策定については、次回の中間点検で経過を報告させていただきたい。

6. 2019 年度の教育活動と学科運営、計画等について

(ア) 医療秘書科

○村山学科長より、資料 6 に基づき以下の説明が行われた。

- ・クラークコースにこそ「カルテ読解」が必要との指摘を受けて、カルテ読解 I・II（前・後期）を共通科目として設置した。
- ・病院事務実習の指導を 1 年生の後期から行うこととし、I と II に分けた。
- ・医療事務・医師事務作業補助者が組織の中で活躍するためには柔軟性が必要だとの意見を受けて、「メディカルホスピタリティ」という科目を 1 年生の後期に配置した。
- ・病院受付実務は、1 年後期から 2 年前期までの間に I・II・III とし、電話応対、クレーム処理などの実践教育に力を入れるように対応した。

- ・大規模なデータを扱う機会が増えている実情に対応するよう、エクセルやアクセスの授業で教材を工夫していきたい。

(イ) 医療マネジメント科

○黒田学科長より、資料6に基づき以下の説明が行われた。

- ・診療情報管理士教育と医療事務を中心にした人材育成の二本立てで考えている。
- ・カリキュラムは、2018、2019年度で大きく変えたので、2020年度は大きな変化はない。コーディング演習Ⅱを2年生の共通科目から管理士コースに移動し、がん登録演習を2年生の後期に配置した。
- ・医療事務コースでは新規で電子カルテ演習Ⅲを設けた。

(ウ) 医師事務技術専攻科

○村山学科長より、資料6に基づき以下の説明が行われた。

- ・運営計画に大きな変更点はない。
- ・カリキュラムは、業界の人材ニーズについて実情を伺いながら、より実務に即したものにしていく。

(エ) 診療情報管理専攻科

○黒田学科長より、資料6に基づき以下の説明が行われた。

- ・近年は、管理士の専門分野に加えてIT関連のスキルも要求されていることを重視している。
- ・カリキュラムにおいては、新規に医学用語実践を設けたほか、病院マネジメントⅠを前期に配置して科目の再編を図った。また、医療情報技師概論を設け、医療情報技師教育の強化と検定対策に力を入れる。
- ・就職支援対策として、キャリアデザインCをカリキュラムに加えた。

○江崎教員より、以下の補足説明が行われた。

- ・医学用語は、臨床医学総合Ⅰの中で行っていたが、実習先から医学用語があまり身につけていないとの指摘があり、新規に医学用語実践を入れることにした。
- ・医療情報技師概論は、医療情報技師試験とがん登録のダブル受験を目指し、内容は情報分野の対策をメインにしている。

7. 2020年度生カリキュラム編成等について

(ア) 医療秘書科・医師事務技術専攻科

○村山学科長より、資料7に基づき以下の説明が行われた。

- ・2020年度は、2019年度に行った改編の検証期間と考えている。
- ・求人時期の早期化に合わせるため、可能なものは1年生の後期または2年生の前期に移すように見直しをした。
- ・DPC対象病院が増える中、コースを問わず基礎知識を身につけるため、DPC基礎を2年生の前期に配置した。
- ・レセプトチェックを共通科目とした。
- ・医師事務技術専攻科は目玉的なものが欲しいので、ぜひアドバイスをいただきたい。

(イ) 医療マネジメント科・診療情報管理専攻科

○黒田学科長より、運営計画のところで説明したので、ここでは省略させていただくとの報告が行われた。

8. 全体を通しての質問・意見・提案と意見交換等

(1) 企業等委員からの意見、提案等

- ・重点目標は共感する部分が多く、学び直しの教育は今の時代に必要なことだと実感した。
- ・ITスキルやコミュニケーション能力の強化は時代に合っており、大事だと思う。
- ・採用時にキャリアデザインについて聞かれる時代なので、この教育は大切にしてもらいたい。
- ・医療秘書科の名称についてはこだわり感があると思うが、一般的に医療事務科が使われている。それ以外では、医療科もベーシックなイメージがあってよいのではないか。
- ・実習については、場所を探すところから先生方が苦勞されているだろうと思った。
- ・医師事務技術専攻科は試行錯誤中だと思うが、文書作成については、就職後すぐに書けるぐらいの状況をつくったほうがよい。
- ・学び直しについて感じるのは、この業種には自腹を切って勉強することが意外と多い。この場所をうまく使って、対面教育を重視することで特徴を出すのもよいかと思う。
- ・誰が教えるかが重要なので、先生の力という点を検討されるとよいのではないか。
- ・重点目標の3つはよく考えて絞り込んだもので、よい目標だと思う。
- ・学び直しの教育は国際性という面でも重要なので、外国人のニーズという視点からも考えたほうがよい。
- ・医療秘書も今は医療事務のほうが聞き慣れているし、マネジメントもはやらない。相手に伝わりやすい表現を考えたほうがよい。
- ・科目名だけでなく、何が身につく、何ができるというスキルがはっきり見えるようにするとよい。
- ・先生方が努力している部分や合格率の向上などが外に見えないのは残念。
- ・診療情報管理専攻科にがん登録と医療情報技師を入れたのはよいと思うが、診療情報管理専攻科という名前でよいのかと感じる。
- ・診療情報管理士と医療情報技師はオーバーラップするので、両方取れると活用の場が広がると思う。
- ・医師事務の人材が不足している。医師事務がいることで医師の募集にも効果があることから体制を整えるべく動き出している。
- ・医師事務の方々から、先生が言っていることがわからないという声を聞くので、診療情報管理士の仕事と医師事務の仕事を同じようなレベルにする形で取り組んでいる。
- ・消極的で自分で考えることをしない人が多い中で、TPCができることは強みになる。電話対応も含め、対話力は最低限必要かと思う。
- ・単純作業をロボットがやるRPAが普及すると、レセプトチェックもロボットでできるようになるかもしれない。プログラミングほど難しくないようなので、そういう技術がある人は相当重宝されると思う。
- ・外国人の看護助手を試しに入れてみたが、積極性があり、日本人よりよく働く。そういうことからTPCを全面に出すことでよい人材が供給できるのではないかと思う。
- ・キャリアデザインの話が印象深かった。就職して何年たったらこのぐらいのことをやりたいという計画を持って、将来を冷静に見られるようにするのがキャリアデザインだと思う。
- ・電子カルテなどもメーカーによっても年代によっても仕様が違うので、学生には応用力と汎用的な考え方を身につけてもらいたい。
- ・地域包括ケアシステムの中で介護系と病院の連携の動きがある。患者さんの流れやそれぞれのサポート内容など、全体を俯瞰する視点が持てるような授業が重要かと思う。

(2) 本校委員からの質問等と企業等委員からの回答、意見交換の概要は次のとおり。

質問・意見等	回答等
<p>ある大学病院の方から、人事異動で専門分野と違う職種に就いたことを理由に、比較的若手の職員がたくさん辞めたという話を聞いた。専門学校生は、組織の中でスキルアップをしようとか、経験を積んでこのようにステップアップしていきたいという部分や、マクロの視点で見るといふ点が、大学生等に比べて弱いと感じている。</p> <p>AIが発達し、仕事の見直しが必要となる中で、人間同士の接点を持つことがますます必要になってくる。今の若者はそこが一番苦手なところでもあるので、コミュニケーションを含めた対面型の教育を行って、その実績を評価してもらうことが必要だと思う。</p> <p>外国人の教育も、一方で国際通用性のある人材ということを言いながら、4月から特定技能で、養成施設を経ないでも在留資格が得られる時代になった。いろいろ課題が出てきているが、まずは本校に入ってきた学生たちをいい形で育てていきたい。</p> <p>学び直しの教育の中では、校友会と連携し、2万人以上いる卒業生との接点を生み出す機会をつくっていききたい。</p> <p>DPC実践の授業で様式1の生データ等がないので、こちらでダミーデータをつくっているが限界を感じている。学習用のダミーデータをどこから入手できないか。</p>	<p>一部の私立大学の医療事務の世界は、人を育てていこうという意識が高くない。</p> <p>今必要なものと、5年後、10年後、20年後に必要なものを教えておきたいと思っても、そんな教育は要らないと思っている人もいる。将来期待される人になるためには、くじけずに勉強して、磨いておく必要があることを伝えるしかないと思う。</p> <p>厚労省で様式1を作成する入力支援ソフトがオープンになっているので、それに打っていけばできる。教員が難しければ学生の研究で打たせてもよいのではないか。</p>

以上